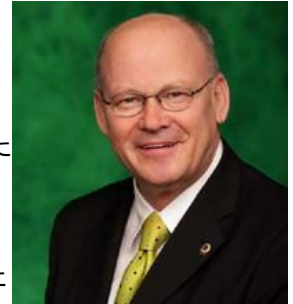


**Lions Clubs International**

国際会長

Eberhard J. Wirfs**国際会長**

エバハルト J. ヴィルフス(ドイツ、ヘッセン州ケルクハイム・アム・トウヌス)は、2009年7月6日から10日にかけて米国ミネソタ州ミネアポリスで開催されたライオンズクラブ国際協会の第92回国際大会で、国際会長に選出された。ライオンズクラブ国際協会は世界最大の奉仕クラブ組織で、人道奉仕及び地域奉仕の世界的リーダーである。



ヴィルフス国際会長は企業家で、自社の元最高責任者。ヨーロッパ全体の冷凍食品マーケティング分野におけるパイオニアである。

ヴィルフス国際会長は、会長テーマ「Move to Grow」を掲げ、世界各地で高まる地域奉仕の需要に対応すべく、協会の推進力を養い、会員数において「Grow(成長)」することを目指している。

ヴィルフス国際会長は経験と能力を兼ね備えたリーダーであり、特に会員増強とエクステンション、指導力育成、そして奉仕と交流の融合において優れた力を発揮している。

1985年以来ホフハイム・アム・トウヌス・ライオンズクラブの会員である同国際会長は、クラブ会長、地区ガバナー、協議会議長、また次期地区ガバナーを指導する地区ガバナーエレクト・セミナーのグループリーダー、そして国際理事と、協会において数々の役職を歴任。ドイツ・ライオンズの財団「Deutsches Hilfswerk」の最高責任者も務めた。さらに、青少年育成プログラムである「ライオンズクエスト」を、系統立ててドイツに導入した。ケルクハイム・アム・トウヌス・ライオンズクラブの名誉会員でもある。

協会への功績が認められ、協会より会員に与えられる最高の賞、親善大使賞を含む、多数の賞を受賞。累進メルビン・ジョーンズ・フェローでもある。

メルビン・ジョーンズ・フェローのマルギット夫人とのあいだには二人の子息、オリバーさんとマルクスさんがいる。オリバーさんとサンドラ夫人のあいだには娘のハナ・カルロッタさんがおり、マルクスさんはポーリーン夫人と家庭を築いている。

[DOWNLOAD PHOTO](#)[DOWNLOAD BIOGRAPHY](#)[E-MAIL](#)

© 2009 Lions Clubs International 300 W. 22nd Street, Oak Brook, IL 60523-8842

「ほら、あの葉をごらん下さい。二つが一つに結ばれている
何百万年もの長い、長い年月を生き続けてきた
人類よりも力強い、命あるもの
火の手も、命を脅かす危険をも生き抜いてきたのです」
「銀杏の木」より



自然について言える最も基本的事実の一つは、自然は活力に満ちているということ。目に映る世界は絶えず変化し続けます。風に吹かれて樹木が揺れるといった自然界そのものに起こる力学現象と、人が動くことにより起こる見た目の変化の両方の影響を受けるのです。もっと簡単に言えば、いかなるものも、進歩あるいは成長するためには推進力または動きが必要なのです。「Move To Grow」これはごく基本的なコンセプト。ほとんど何にでも当てはまる概念です。変化のないものに発展はありえないのです。

この基本的なコンセプト「Move To Grow」こそ、2009～2010年度のテーマとして私が選んだもの。銀杏の木と葉はこのテーマのシンボルです。

銀杏の木を見たことがありますか。銀杏の歴史は古く、その原種については2億8千年前まで遡ることができます。このように古生代に明白に結びつく系統をもって今日生息している極めて希少な植物のひとつです。化石となった銀杏の葉と石化した幹が、第三紀時代の北米、ヨーロッパ、アジアで見られます。生命力が非常に強く、平均寿命が千年という銀杏の木。同じ植物に雄株と雌株の区別があるというユニークなものです。

ではなぜ銀杏の木なのでしょう。銀杏の木は希望と愛のシンボル、そして平和と環境保護のしるしです。銀杏の木は事実「千年」樹と宣言されています。その輝かしい歴史、長寿、順応性、実用性、持続性、世界的な分布といった他の特性を踏まえた場合、銀杏の木とライオンズクラブ国際協会には相関関係があることが容易に見えてとれます。

銀杏の木の起源と寿命に比べれば、ライオンズクラブ国際協会はまだ始まったばかりにすぎません。国際理解の推進に献身する世界規模の組織として私たちは、機会あるごとに象徴的な意味で「銀杏の木」を植えなければなりません。世界中で、苗木をしかるべき方法で日の当たる肥沃な土壌に植え、水を与えて育てる必要があるのです。銀杏の木のように、私たちライオンズの各種プログラムも、長い間持続可能な資源でなければなりません。常に私たちのモットー「われわれは奉仕する」を心に留め、理解、そして息の長い社会奉仕の種を蒔き、趣旨について明確かつ一貫したメッセージを広めていかなければなりません。これには努力、推進力、行動、そして前進が必要です。

私はライオンズを通じて、そしてライオンズから多くを学びました。大きな課題を任せられ、こうしたチャンスをいただいたことに心より感謝しております。いまこそ恩返しをする時が来たのです。

エバハルト J. ヴィルフス
ライオンズクラブ国際協会会長